

第2学年B組 図画工作科学習誘導案

教諭 石本 卓郎

単元 あわあわの 形から 見つけたよ

(本校教育課程 図画工作科単元 第10項 11月上旬～11月中旬 6時間)

「単元の問題」を提起する根拠

○ 子どもの興味・関心の実態

教室の図画工作科コーナーに、洗剤と水を混ぜたシャボン液とシャボン玉をつくる道具(円状のもの)を置いていた。すると、本学級の子どもたちは、外に出て、その道具をシャボン液の中に入れた。空中でゆっくりと道具を動かし「シャボン玉ができたよ。」と、1年生の生活科のシャボン玉づくりを思い出しながら、大きなシャボン玉をつくることに興味をもっていた。そこで、ペットボトルの中央を切り取り、切り取った面に水切りネットをかぶせ、ゴムで縛ったものと手押しの空気入れを連結させた道具を図画工作科コーナーに置いた。すると、その道具を手に取り、シャボン液の中に入れて、手押しのポンプを押したり引いたりしながら空気を送り出し、「泡の塊ができたよ。」「なんでこんなに泡が出てくるのだろう。」と言って、大きな泡の塊をつくることに関心が高まりつつある。

○ 子どもの能力の実態

本学級の子どもは、これまでに、洗濯糊と絵の具と水を混ぜた「とろ～り絵の具」を画用紙の上に垂らし、様々な方向に傾けて動かしながら線を描き、その線や線で囲まれた形を見立てて、クレヨンで描き加える活動を経験している。また、画用紙の切り取った形を回転させながら見立てを行い、クレヨンで描く活動も経験している。このような造形活動を通して、知識及び技能の面では、クレヨンの先や側面で線の太さを変えたり、ぼかしの技法を使ったりするなどの技能は身につけている。しかし、色を重ねたり、見立てたものの表情やしていることなどを詳しく描いたりする工夫はできていない。思考力・判断力・表現力の面では、生活経験の中で、出合った好きなものやいいなと思うものを思い浮かべることが苦手になっている児童が数名いる。また、形から見立てを行ったり、見立てたものからイメージを広げたりするなどの、思いを繋ぎ合わせながら、どのように表していくかを考えることはできていない。態度の面では、楽しく活動に取り組んでいるが、全員が納得するまで造形表現を追求し、つくりだす喜びを味わっているとは言えない。

○ 社会からの要求

ITの発展に伴った情報化社会、時代の変化の激しい現代、子どもたちは、情報機器、SNSなどの便利で完成されたものに囲まれて生活している。そのため、生活はより豊かになり、必要な情報を瞬時に得たり、暇なく楽しい時間を過ごしたりして、自分の中で生まれた欲求をすぐに満たすことができるようになってきている。しかし、それと同時に、鮮烈な直接体験の機会が減少しているという現代社会の状況がある。また、自ら遊びを考えたり、身の回りにあるものを使って遊びに必要なものをつくり出したりするなどの発想力を働かせる機会も失われてきている。そこで、図画工作科の絵に表す活動で、材料やつくりつつある造形物、互いの造形物などの形や色から発想を広げ、自分の思いが内包する造形物をつくりだす経験を積み重ねていくことは大変意義深い。

○ 教科系統上の要求

第1学年では、生活経験の中で、強く心に残ったことなどを基に、およその表したいことを描きながら発想をしていた。第2学年では、心に残ったことや関心のあるものごとから想像したことを基に、見立てを行ったり、思いをもって、表したいことを見付けたりしていく。第3学年及び第4学年では、心に残ったこと、関心があるものごとから想像したことだけでなく、自分自身が興味をもって見たものの形や色、触れてみたいことを基に、思いをもって、表したいことを見付けていく。第5学年及び第6学年では、心に残ったこと、関心があることから想像したこと、見たものの形や色、触れてみて分かったことだけではなく、奥行きや前後関係、自分を伝えたい思いを基に、表したいものを見付けていく学習へと発展する。

単元の問題

あわあわの 形から 見つけた ものを 工ふうして えがこう。

- あわあわの 形から 見つけた ものを かこう。
- まわりの ようすを くわしく かこう。
- あらわし方を 工ふうして しあげよう。
- 作ひんを しょうかい しよう。

目 標

<知識及び技能>

○ 泡の形や色に注目したり，自分の表したいことを基に必要な材料や好きな色を選択しながら，描き方を工夫して表したりすることができる。

<思考力，判断力，表現力等>

○ 泡の形から見立てを行い，見立てたものがしていること・場所・様子などを考えることができる。

○ 泡の形や色，表し方の面白さや自他の作品に込められた思いなどを感じ取り，自分の見方・感じ方を広げることができる。

<学びに向かう力，人間性等>

○ 泡の形から，思いついたことを納得するまで描き，つくりかえながら，自分の表したいものを楽しく，つくりだそうとする。

誘 導 の 着 眼

【着眼】 感性をゆさぶる教材との合わせ方の工夫

(1) 意外性を生かす活動と場の設定

泡の形や色つきの泡の形が紙の表面に残るといった意外性や泡の形がいろいろなものに見えるという意外性を感じ取ることで，感性をゆさぶり，造形的な見方・考え方を働かせながら，自分なりの表現や鑑賞を行うことができるように，以下の活動と場，教師の支援を順に設定する。

	教師の支援	意外性を生かす活動	意外性を生かす場
1	<ul style="list-style-type: none"> 泡の形の面白さに気付くことができるように，白紙の上で，自由に泡の塊をつくる活動を設定する。 色の必要感を感じることができるように，泡をつけて破裂した直後の写真（泡の跡が残っている）と時間が経過した写真（泡の跡が残っていない）を比較して，気付いたことや考えたことを伝え合い，めあてを立てる時間を設定する。 	洗剤と洗濯糊と水を使ってシャボン玉遊びをする。 ※ 洗濯糊は泡を重くするため。	破裂した泡の形をうつしとることができるように，白紙を設置する。
2	<ul style="list-style-type: none"> 無意図的かつ多様な泡の形をつくり出し，見立てを誘発することができるように，画用紙を適度に重ね合わせて設置する。 色のついた泡が破裂した後に残る泡の形や色の重なり目の面白さを感じるできるように，色つきの泡を吹く活動の後に，色つきの泡の跡が残っている画用紙を見て，思ったことや感じたこと，考えたことを尋ねる時間を設定する。 	洗剤と水と絵の具を混ぜた「あわあわ絵の具」をつけ，泡をつくりだす道具で，色つきの泡をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> 無意図的トリミングが起こるように，画用紙を重ねて設置する。 色を選択できるように，5色を設置する。
3	<ul style="list-style-type: none"> 泡の形から見立てる楽しさを味わうことができるように，教師のモデル作品を提示し，泡の形から見立てたものを発表する時間を設定する。 描きたいという思いをもつことができるように，自分の表しつつある造形物を回転して，何に見えるかを発表する時間を設定する。 	教師のモデル作品や自分の表しているものの泡の形が何に見えるかを発表する。	友だちの作品の形や色を捉えることができるように，カメラを活用して作品をテレビに映し出す。

教材としての価値	泡の塊をつくる楽しさを味わった後，泡がわれて残る形や色，色の重なりなどの造形的な面白さを味わうことができる。また，泡の形や色を注意深く見ることで，生活経験の中で見たものや印象に残ったものと結び付け，「見立て」始める。見立てたものから更に，想像を広げ，ストーリーや場面などの描きたいものを発想し，自分なりの思いや意図を込めることのできるよさがある。
----------	---

(2) 思いを共有し合う活動の設定と支援

材料や用具，表しつつある造形物，作品とかかわる中で，表出した感情やイメージ（見立て），取り組みたいことなどの思いを共有し合い，「自分の表したものの形を見立て，工夫して，描いていきたい。」という問題を生み出すことができるように，以下の活動と教師の支援を順に設定する。

	活動	ねらい	教師の支援
1	泡の形から見立てたものを伝え合う活動。 (教師のモデル作品)	泡の形を見立てる楽しさを共有し合う。	① 教師のモデル作品を回転させて提示する。 ② 「泡の形を見て，気付いたことやひらめいたことはありますか。」「どこの部分が何に見えるましたか。」と尋ねる。
2	自分が見えたものが，もっとよくあらわれるようにするためにはどうすればいいか考え，伝え合う活動。 (教師のモデル作品)	描き加えることで見立てたものが明確になる楽しさを共有し合う。	① 「自分の見えたものがもっとよくあらわれるようにするには，どうしたらいいですか。」と尋ねる。 ② 「自分の見えたものがもっとよくあらわれるようにするために必要な材料や道具は何ですか。」と尋ねる。 ③ 子どもの発言に応じて，目や口，形，模様などを加筆する。
3	自分の表しつつあるものの形から見立てたものを伝え合う活動 (自分の表したものの)	これからしていきたい活動を共有し合う。	① 子どもの発言に合わせて，作品の向きを変えて全体に提示する。 ② 「どこの部分が何に見えるましたか。」と尋ねた後，これからどのように活動していきたいかを全員で発表する時間を設定し，大きなめあてと単元を立てる。

単元展開（総時間数 6 時間）

	主な学習活動	教師のねらいとその手だて	評価の規準と観点
出合う・見通す	1 泡の塊をつかって遊び。 1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 泡の塊をつくりだす面白さを感じることができるように、吹き出した泡を置くための白紙を床に設置し、洗濯糊を入れて重量のあるシャボン玉液を用意する。 ○ 吹き出した泡が破裂した後に残る泡の形の面白さに気付くことができるように、床に設置した白紙の上に置いた泡の周りを鉛筆で囲む活動を設定する。 ○ 泡の形の面白さに気付くことができるように白紙の上に置いた泡を見て気付いたことや発見したことを発表し合う活動を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 白紙にうつる泡の形に気付いている。（知識・技能）
	2 色付きの泡をつかって遊び、中心問題を立てて、単元を設定する。 1（本時）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 色の必要感を感じることができるように、泡をつけて破裂した直後の写真（泡の跡が残っている）と時間が経過した写真（泡の跡が残っていない）を比較して、気付いたことや考えたことを伝え合う時間を設定する。 ○ 偶発的に多様な泡の形をつくり出し、見立てを誘発することができるように、画用紙を適度に重ね合わせて設置する。 ○ 色のついた泡が破裂した後に残る泡の形や色の重なり面白さに気付くことができるように、色付きの泡をつくる活動の後に、色付きの泡の跡が残っている画用紙を見る時間を設定したり、思ったことや感じたこと、考えたこと尋ねる時間を設定したりする。 ○ 泡の形から見立てる楽しさを味わうことができるように、教師のモデル作品を提示し、回転させながら「この泡の形を見て、気付いたことやひらめいたことはありますか。」「どこの部分が何に見えましたか。」と尋ね、見立てたものを発表する時間を設定する。 ○ 活動の見通しをもつことができるように、「自分の見えたものがもっとよくあらわれるようにするにはどうしたらいいですか。」と尋ね、考えたことを発表し合う時間を設定する。 ○ 表現の多様性を生み出したり、活動の見通しをもったりすることができるように、「どんな材料や道具が必要ですか。」と尋ねる。その後、子どもの発言に応じて材料や道具を選択し、目や口、形、模様などを加筆する。 ○ 問題を見出すことができるように、自分が表した泡の形から見立てたことを話し合う活動を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 泡の形を見ながら、生活経験で接したものに、見立てようとしている。（思考・判断・表現） ○ 「自分の表したものの形を見立てて、描いていきたい。」という思いを高め、問題を見出している。（主体的に学習に取り組む態度）
中心問題 あわあわの 形から 見つけた ものを 工ふうして えがこう。			
いどむ	分析問題 1 あわあわの 形から 見つけた ものを かこう。		
	3 いろいろな泡の形から見立てを行い、見立てたものが分かるように描く。 1	<ul style="list-style-type: none"> ○ いろいろな泡の形から見立て、描くことができるように、画用紙を回転させて様々な角度から泡の形を見て、思いついたものを描く活動を設定する。 ○ 自分の思いついたままに描くことができるように、自分の必要な材料を自由に用意してよいことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の描きたいものや活動に必要な材料、用具などを考えている。（思考・判断・表現）
	分析問題 2 まわりの ようすを くわしく かこう。		
4 見立てたものがしていること・場所・様子が分かるように材料や用具を使って描く。 1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見立てたものがしていること・様子・場所などを描くことができるように、教師が描いた2つのサンプル作品（場面や様子がわかるように描かれた絵と描かれていない絵）を比較する活動を設定する。 ○ およそのストーリーができるように、「性別、性格、どこにいる、誰といる、何をしている」などの視点で考えたことを互いに伝え合う時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見立てたものがしていること・様子・場所、ストーリーなどを考えている。（思考・判断・表現） 	
分析問題 3 あらわし方を 工ふうして しあげよう。			
5 表し方を工夫してつくる。 1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の納得がいく作品をつくりだすことができるように、自他の工夫点を伝え合い、自分の活動をふりかえる時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な表し方で、工夫して表している。（知識・技能） 	
味わう	分析問題 4 作ひんを しょうかい しよう。		
	6 互いに描いたものを紹介し合う。 1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見方、感じ方、考え方を豊かにすることができるように、自他の作品の紹介をしたり、こだわった場所を伝え合ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自他の作品を鑑賞し、表し方の面白さや作品に込められた思いを感じ取っている。（思考・判断・表現）

(1) 主眼

重ね合わせた画用紙の上で、色つきの泡をつくったり、教師のモデル作品や自分が表しつつある造形物の泡の形を見て、見立てたものを発表したりする活動を通して、問題を見出すことができるようにする。

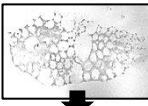
(2) 本時における学びに没頭することに向かおうとする子どもの姿

「色の泡を、画用紙につけていきたい。」という感情を抱きながら、泡の形をつくり出し、その泡の形から見立てたものが、もっとよくあらわれるようにするためにはどうすればよいかを考える姿。

(3) 準備

絵の具、洗剤、水、皿、画用紙、モデル作品、泡を吹く用具、ゴム手袋、作品を入れる容器

(4) 展開

学習活動と子どもの意識	誘導上の留意点 (○) と評価 (※)
<p>1 2枚の写真と比較して気付いたことを発表し合い、めあてを立てる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>形</p> <p>1枚目の写真は、あわあわの形がきれいに残っているよ。なんで、時間が経ったら、形が無くなってしまったのかな。</p> </div> <div style="width: 45%; text-align: center;">  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>色</p> <p>乾いたから、あわあわの形が消えたのだと思います。洗剤と水に絵の具を混ぜたら、色つきの泡の跡が残ると思うよ。</p> </div> <div style="width: 45%; text-align: center;">  </div> </div>	<p>○ 色の必要感を感じることができるように、泡をつけて破裂した直後の写真（泡の跡が残っている）と時間が経過した写真（泡の跡が残っていない）を比較して気付いたことや考えたことを伝え合う時間を設定する。</p>
<p>色の ついた あわあわを おいて あそぼう。</p>	
<p>2 洗剤と水と絵の具を混ぜ合わせた液「あわあわ絵の具」を使って色のついた泡をつくる活動を設定する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>絵の具をつけてよかったね。あわあわの跡がしっかり残っているよ。いろいろな色を試してみたら、色が重なって、とても綺麗だよ。</p> </div> <div style="width: 45%; text-align: center;">  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>重なった画用紙の上にあわあわをつけると、面白いあわあわの形ができたよ。</p> </div> <div style="width: 45%; text-align: center;"> <p>【重なった画用紙に色を重ねた様子】</p> </div> </div>	<p>○ 偶発的に多様な泡の形をつくり出し、見立てを誘発できるように、画用紙が重なり合うように散らして広げる。</p> <p>○ 色のついた泡が破裂した後に残る泡の形や色の重なり面の面白さに気付くことができるように、色つきの泡をつくる活動の後に、色つきの泡の跡が残っている画用紙を見る時間を設定したり、思ったことや感じたこと、考えたこと尋ねる時間を設定したりする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">【色つきのシャボン液】</p> <p style="text-align: center;">絵の具：洗剤：水＝1：2：2</p> <p style="text-align: center;">洗剤は界面活性剤が高いものを使用する。</p> </div>
<p>3 教師のモデル作品を提示し、泡の形が何に見えるかを伝え合う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>緑色のあわあわが鳥に見えるよ。緑色の泡の中に黄色の絵の具が垂れたあとが鳥の目に見えるよ。</p> </div> <div style="width: 45%; text-align: center;">  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>あつ、確かに鳥に見えるね。</p> </div> <div style="width: 45%; text-align: center;"> <p>回転</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>クレヨンでかいたら、僕の考えたものが、もっとよくわかると思います。色鉛筆も使いたいです。</p> </div> <div style="width: 45%; text-align: center;"> <p>回転</p> </div> </div> <p>色ペンでも描いてみたいな。松ぼっくりやどんぐりが教室にあるから、色んな材料をボンドで貼っていけたら楽しそうだな。</p> <p>羽をクレヨンでかいたら、くじゃくになったね。羽を広げているみたいだね。</p>	<p>○ 泡の形から見立てる楽しさを味わうことができるように、教師のモデル作品を提示し、回転させながら「この泡の形を見て、気付いたことやひらめいたことはありますか。」「どこの部分が何に見えましたか。」と尋ね、見立てたものを発表する時間を設定する。</p> <p>○ 活動の見通しをもつことができるように、「自分の見えたものももっとよくあらわれるようにするにはどうしたらいいですか。」と尋ね、考えたことを発表し合う時間を設定する。</p> <p>○ 表現の多様性を生み出したり、活動の見通しをもったりすることができるように、「どんな材料や道具が必要ですか。」と尋ねる。その後、子どもの発言に応じて材料や道具を選択し、目や口、形、模様などを加筆する。</p>
<p>4 自分の表したものの泡の形を見立て、何に見えるかを発表する。</p> <p>ぼくがつくったあわあわの中に、とっても見立てやすいあわあわの形がありました。黄色の細長い泡がキリンに見えたので、クレヨンで色を付けていきたいです。</p>	<p>○ 問題を見出すことができるように、自分の表したものをよく見て、見立てたことを全体の場で発表する活動を設定する。その後、「これから、どのような活動をしていきたいですか。」と尋ね、思いを伝え合う。</p> <p>※ 「自分の表したものの形を見立てて、描いていきたい。」という思いを高め、問題を生み出している。</p>
<p>【大きなめあて】 あわあわの形から 見つけたものを工夫して えがこう。</p> <p>【たんげん】 あわあわの形から 見つけたよ</p>	
<p>5 本時学習のふり返りをする。</p> <p>次は、クレヨンでかいたり、スパンコールなどの材料をはったりして、今日、見つけたキリンをカッコよくしていくぞ。</p>	<p>○ 次時の活動で取り組みたいことを整理し、思いを高めることができるように、本時学習のふりかえりを伝え合う時間を設定する。</p>

研究のまとめ

【本時の成果と課題】

着眼（１）意外性を生かす活動と場の設定

成果と課題

- 感性を働かせて、自分の好きな色を選択し、様々な色の泡の形を作り出すことができた。また、画用紙を重ね合わせることで無意図的なトリミングが起き、トリミングされた泡の形から様々な見立てをすることができた。
- 見立てが起こりそうな泡の形を教師のモデル作品にしたことで、造形的な見方・考え方を働かせ、生活経験と結び付けイメージを広げながら「この角度から見るとこれが目で、これがくちばしで、これが頭に見えます。」と、色つきの泡の形を見て、自然に見立て誘発することができた。
- 自分が見立てたものとは違っていても、「～の部分が～に見える。」と発表し合い「本当だ。」「～に見えるね。」などと、互いの思いを共有することができた。
- 様々な色の泡が重なり合った部分では、見立てが起こりにくかった。そこで、1枚目は好きな色、2枚目は次に好きな色、3枚目は自由に色を選んで活動をするなどの活動に区切りをいれたり、5色の中から好きな色2色を選び活動をしたりするなどの教師がマネジメントをすることも必要であった。
- 写真を比較し、教師が「なぜ消えてしまったのですか。」と泡の形が消えた原因を子どもたちに尋ねているが、「どうすれば、前時で見つけた泡の形を残すことができるのですか。」「材料や道具は必要ですか。」と尋ね、子どもたちの色の必要感を引き出し、めあてをすぐに立てる必要があった。

着眼（２）思いを共有し合う活動の設定と支援

成果と課題

- 教師のモデル作品に加筆することで、友達が思いついたものがより明確になる楽しさを共有することができた。
- 教師が「他に必要な材料や道具はありますか。」と尋ねることで、描く道具だけでなく、「どんぐりや枯葉、松ぼっくりなどの自然のものを木工用ボンドで貼っていききたい。」と、表現の多様性を生むことができた。
- 様々な見立て方があることや、加筆することで思いついたものがより明確になる楽しさを更に味わうために、複数の子どもを指名し、全体の場で加筆する時間を多く設定できると、「描いていきたい。」という思いをより一層高めることができた。そのために、教師のモデル作品はカラー印刷をして、数枚準備する必要があった。

【共同研究者からのコメント】

- 子どもたち自身の思い、考え、発言でどんどん学びが展開していきます。まさに、小倉小が戦後より一貫しておこなってきた子ども主体の学びがそこにあります。しかし、その学びの背景には、石本先生の徹底的に磨き上げた教材開発・研究と授業構成があるのです。そうやって子どもたちは教師の願いが具体的なかたちとして準備された学びの場に抱かれながら、一時間一時間、毎日毎日を積み重ね豊かに育っていきます。それにしても石本先生開発の「あわあわマシーン」凄いですね。また、淡い色になりがちな泡がしっかりした発色のものになっていて、ここにも先生の教材研究の秘密がありそうです。いつもながらに造形アイデアも見どころ満載の授業です。子どもたちの発想を引き出す場面では、絵本作家エリック・カールさんの子どもたちとのワークショップを思い出しました。彼は子どもたちから次々と出されるリクエストに応え不思議な生き物を描いていきます。子どもたちは目をキラキラさせてその様子を見つめ、勢いよく自らの造形表現に飛び込んでいきました。ここでは石本先生がカールさんです。来年はまた小倉小の子どもたちの素敵な造形活動をライブで味わいたいと思います。

（福岡教育大学 准教授 笹原 浩仁 先生）

- 本実践は、新学習指導要領の内容のA表現(1)のAに該当する実践で、発想や構想の力を培うことができる単元です。このことは、図画工作科においては、思考力・判断力・表現力の育成を目指すことのできる単元といえます。動画の中の子どもの姿でも確認できたように、色のついたシャボンの泡の形を発想源にし、次から次へと発想を広げていました。自分の画用紙が乾くのを座って見ている子どもが、立ち上がった瞬間「あっ、ふぐだ！」と見立てをしていました。見立ては、意味のない形などを自分の経験などと結びつけて、意味や価値をつくり出すことであり、造形的な見方・考え方を働かせている姿でもあります。この子は、見る角度や距離の違いからも見え方の違いがあることにも気づいたことでしょうか。さらに、子どもが広げた発想を具体化する造形的な活動を思いつく姿も見られました。いろいろな制約がある中、教師の工夫により、身近な題材で資質・能力を培うことが期待できるよい実践例だと思います。

（福岡教育大学 特命教授 家入 禎博 先生）